

NPO法人地球子どもクラブ主催

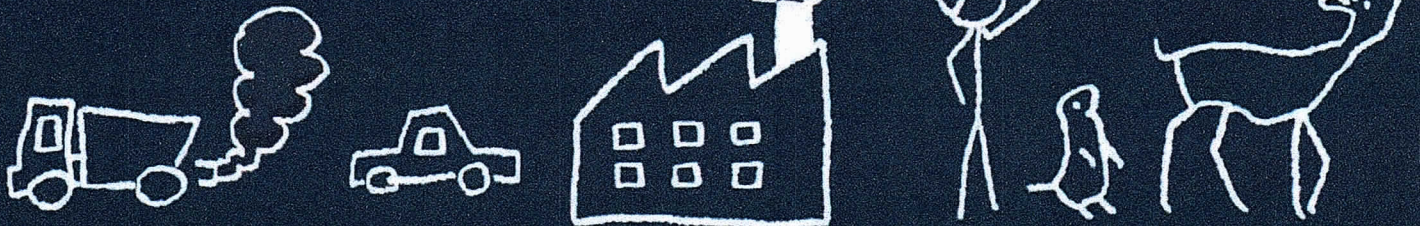
ぼくたちの地球を守ろう

第28回 小学生 中学生 作文コンクール

第22回 小学生 中学生 ポスターコンクール

テーマ
大気汚染

きれいな空気を
守るために!



The Children Of The Earth's Club
地球子どもクラブ

入賞作品集

内閣総理大臣賞

タイトル：【一人ひとつの植物から】
埼玉県 中学校1年生 本永 都万麻

私の父は、林業に関する仕事をしているので、幼少のころ、自然と触れ合う生活をしてきました。

生まれた時から、木の香りのある部屋で遊んでいました。なぜなら、遊ぶ道具はヒノキの間伐材（森を健康にするために木を間引く作業でできた木材）を利用して作った積木でした。中でも、父からプレゼントされた学習机は今でも宝物です。父が一から作ってくれた机で勉強するうれしさと、杉のにおいがする部屋が大好きでした。小さな部屋で自然に触れることの出来る環境は、気持ちを落ち着ける場所で、今も大切に使っています。

また、さらに、シイタケのほだの木に菌を植えたり、山登りをしたりして、学校では学べないことを父が教えてくれました。このような環境の中で成長した私は、自然の雄大さ、自然の中で学ぶ楽しさを体感することで、木に囲まれた生活は人の心を落ち着かせ、また、ぬくもりを感じながら、自然が大好きとなったわけです。

近年「大気汚染」が問題として、ニュースで度々特集されています。主な原因は、工場などの生産活動を行う際に、大気汚染物質が排出されているための汚れだそうです。私は、この問題の解決のためにどうしたらよいか、自分一人で何か出来ないものかと考え、自分から始めれば良いと感じました。

私がこの課題作文と出会い、提案したいのは「一人ひとつの植物を植えよう」ということです。理科の授業で、植物は日光の当たっている時には、二酸化炭素を吸収し、酸素を排出するということを学んだからです。私は、小さなことから始めることが環境問題を解決する方法になるのではないかと考えました。植物を植えることは、空気をきれいにするだけではありません。人を笑顔にさせてくれるのです。

例えば、自分が日常生活している道路に植え、四季折々の木々の変化を目の前で確認すれば、きれいな花が咲き、どんな人も心が和むはずです。花を枯らさせず、きれいに咲かせたいと思います。はじめは一人でも良いのではないかと、その地域でコミュニケーションも、少しずつ出来て行くのではないのでしょうか。

みなさん、家でお花を育てる所から始めませんか。私は、家庭から、そして、友達へ。友達から住んでいる地域へ。地域から日本へ。日本から世界へ。みんなで協力して、植物を植える活動を広げていきたいです。

このように、私は、大気汚染問題の解決には、「一人ひとつの植物を植える」ことから始めたいと思います。植物の力はすごいのです。世界中の人を笑顔にできるのです。まず私がやることは、父が通っている森に行って、木を植えたいと思っています。少しでも世界中の多くの人が大気汚染に苦しむことなく、笑顔で生活できる環境を守っていききたい。

外務大臣賞：小学生部門

タイトル：【おいしい空気をいつまでも…】

千葉県 小学校 6年生 佐藤 妃蘭

「空気にもにおいがあるはず！」

私の住んでいる千葉県勝浦市は自然がいっぱい残っています。多くの観光客が訪れる、ビッグひな祭り・カツオ祭り・勝浦大漁祭りが終わったあとの街はふだんの空気の流れとはちがっていたように感じていたので、地域を見直してみることにした。三月のある日、観光客のみなさんの去った後のメイン通りを歩いてまず、目に入ったのはゴミの量の多いことでした。

近ごろ、私の家の近くまで、サル、イノシシ達があらわれます。ソーラーパネルを設置するための工事が行われているので、エサのある場所が少なくなり、下りてくるのだと考えます。

そこで、「街の空気がどのくらいきれいか？調べてみたいなあ」と祖母に話したら、歴史のある八幡岬公園に連れて行ってくれました。

車から下りると空気がひんやりとしていて、体全体が自然の中に吸い込まれてしまいました。一しゅんで、リフレッシュした気持ちになりながら、海を見下ろせる神社に登って行くと、海からは潮の香り、山の方からは草の香り、こしを下ろしてみると土の香り。大きな深呼吸をすると胸の中がスッキリ…。

「これがおいしい空気というものだよ」

ゆっくりと私の心に届けてくれているように感じました。世界中につながっている。海が本物の香りを届けていることを感じました。

その時の勝浦の空は青かった。どこまでも続いていた。

「こんなにきれいな空気のままでいられるために、どんな対策をとっているのかなあ。」

と独り言を言ってみると、

「空気の汚れを測る測定器の設置、桜の木を植える、ゴミの処理方法、ゴミを外で燃やさない。勝浦では何年も前からしているよ。」

と祖母が話してくれました。

家に帰り、県ではどんな対策をとっているのか調べてみると、①プールやタンクにび生物などで汚れた水を入れる。②び生物に有機物を食べさせて増やす。③増えたび生物ときれいになった水等を分ける。④上に浮いた水だけを川や海に流す。土じょうや地下水の汚染は直接口にすると汚れた水を飲むことになる。とパンフレットがすでに配布されていました。「意識して実行している人はどのくらいいるのかなあ」とつぶやくと、近くにいた母が「興味があるなら『きれいな地球を守る会』という活動があるので、今度一しょに参加してみよう」とさそってくれました。

おいしい空気をいつまでも…。

一人の力では解決できないことである。協力して実行しなければいつまでもすんだ空気は守れない。今日からすぐ行動し、すんだ空気をすい、きれいな夜空がいつまでも見られるよう、私も活動していきます。

外務大臣賞：中学生部門

タイトル：【一つ屋根の空】

兵庫県 中学校2年生 天羽 悠月

「それめっちゃいいやん」

風車を備える車、シンクで水力発電。私達が暮らす日常から宇宙まで“これからのエネルギーのアイデア”グリーンパワーキッズ。皆の思いが一つの未来を作り出していく。

私は小六の秋、学校で四大公害病とクリーンな日本について学んでいた。しかし、ニュースなどで報じられる様々な環境問題。「公害は過去のものなのか」そう考えたとき、私は大切なエネルギーを根本から学び、次世代エネルギーを導く活動に応募した。

参加してまず驚いたこと。それは、日本のエネルギー自給率がたった6パーセントに過ぎないことだった。そのとき私は、日本が黄色い光に埋め尽くされているISSが写した写真を思い出した。とりわけ明るく光る日本は、電力をどれだけ消費しているのかを物語っていた。

そのことを実感した出来事がある。雨降りの夜、車から降りると月も出ていないのに空が薄明るく広がっていた。それはとても不自然で、私が通う芦生の自然学校や田舎の祖父母宅ではあり得ないことだ。それは、人口だけの問題ではないと思う。

私がグリーンパワーで学んだこと。限りある資源と産業や人口増加によって起きるエネルギー不足。地球温暖化や環境破壊のないエネルギーが必要とされていること。そこで私達は、これからについて話し合いアイデアを築き上げ、集まり、発表した。神戸・徳島・沖縄・東京とそれぞれの生活環境の違いから、思いもつかないような意見が出てきた。参加した四県で違いがあるならば、日本や世界全体ではもっと違うのではないだろうか。私は発表の際、国際協力で行う“宇宙発電”の提案をした。「宇宙から見ると国境はない」と毛利さんの言葉を引用させてもらい、これからのエネルギーには、国際協力が必要だと訴えた。それには、意見や文化の違いが大きな壁になるかもしれない。

しかし、グリーンパワーキッズでは、同じ思いを持って集まったからこそ分かり合えた。そのように壁を越え、互いに意見を伝え合う場がより増えていけば、大きな視野で考えられる人を増やして行くことになると思う。そしてそれが、エネルギー、自然、人の共存、共生の輪につながって行くだろう。

私はこの作文を書き進めて行くうちに、「大地を踏みしめ生きていることは、特別なことなのではないか」と、思った。“青い空ときれいな空気”がすべてにめぐることを信じ、和の心を大切にしていきたい。One for all, all for one. 一つの屋根の空の下、共に暮らす喜びをかみしめながら。

文部科学大臣賞：小学生部門

タイトル：【明るい未来のために】
静岡県 小学校5年生 中野 愛子

今、世の中ではインスタグラムが大流行している。カラフルな食べ物やかわいい物を写真に撮り、発信しているのだ。私が原宿に行った時のことだ。インスタグラムにのせるための写真を撮って、食べずに捨てられたクレープやアイスなどが街中のゴミ箱にあふれているのを見た。私は、一体何が起きているのかと驚いた。

街は、おしゃれをした若者でいっぱい。私はこれが平気なのかと不思議に思った。これは本当の幸せなのだろうか。

「ゴミを出す」ということは、ゴミを焼却する過程で有害物質が排出され、大気汚染につながって行く。つまり、地球を破壊しているということになる。

私は社会科の授業で、「こども環境サミット」が開催されたという記事を見つけた。この活動は、地球環境をよくするために子供達が考えていることを伝えあおうという活動だ。私達にも出来ることがあるのではないかと思い、友達と考えてみた。

まず、食べ残しをしない。必要以上に買い物をしてない。エコバック運動などが出来ると考えた。私達は便利すぎる社会があたりまえになっていると思う。豊かな国に生きる私達はまず、大量に物を消費する生活から見直していく必要があるのではないか。

その他に私の身の回りで、何か大気汚染への対策がされていないだろうか。

「そうだ」

私は、おじいちゃんの車に低排出ガス車のシールが貼られていることを思い出した。おじいちゃんに車のことについて聞いてみた。

「おじいちゃんの車は、低公害のハイブリッド車なんだよ。ゆっくり走る時はエンジンが切れてモーターに切りかわり、排気ガスを出さないで走る車なんだよ」と教えてくれた。さらに、通学途中の道で「地球を守るために、自転車に乗ろう」という看板も見つけた。私は、身近な所にも目を向けてみると、たくさんの対策がされていることに気付いた。

私達がやがて大人になって、次の時代を築くことになる。生活レベルが向上して行くことは良いことではあるが、本当に必要なこと、大事なことを見失わないようにしたいと考える。今、世界の国々が一致団結し、自然環境を守ることはもちろん、「本当の幸せ」に気付いて行くべきではないか。

宇宙飛行士の毛利衛さんは、

「スペースシャトル・エンデバー号から見た地球はきれいだった」

と言っていた。この美しい地球を守るために、私達一人ひとりが意識をし、力を合わせて行きたいと思う。そうすれば、きっと明るい未来が待っている。

文部科学大臣賞：中学生部門

タイトル：【広く青い空を未来へ】

神奈川県 中学校2年生 五十嵐 咲絢

我が家の目の前の道路は、絶えず車が行き交っている。洗濯物を干そうと竿をふくと、黒い物が付着する。これが空気中に浮遊しているのかと思うと、大気汚染の問題も身近に感じざるを得ない。その為、私は、小学生の頃から大気汚染について調べ、私なりに出来ることを実践している。

まず一つ目は、なるべく車を使わないことだ。車の排気ガス排出量は改善されているものの、大気汚染の一因であることは紛れもない事実だ。自宅から最寄り駅までは、徒歩十分。勿論歩けない距離ではないが、慌ただしい朝は、正直車で送ってもらいたくなってしまふ。しかし、そうして車の利用が増えれば、必然的に汚染物質の排出量も増え、大気汚染に繋がる。その為、私は、毎朝駅まで歩くことにしている。のんびり支度をすると、駅まで強制的にランニングする羽目になるので、電車の時間を考慮し、家を出るまでの流れを自分で考える等、時間を計算しながら計画的に行動する習慣もつき、歩くことは、大気汚染改善に貢献するだけでなく、まさに、一石二鳥と言える。

そして二つ目は、ゴミの削減だ。焼却時の汚染物質抑制技術は大きく進歩し、厳しい排出基準も定められているが、あくまで基準をクリアしているのもあって、汚染物質が皆無ではない現状は楽観視出来ない。そこで私は、エコバッグや簡易包装の選択を心がけている。

また、自分がどのくらいゴミを出しているかを把握するようにしている。それによって、食材を無駄にしない、食べ残さない、ゴミになる過剰な包装はしないようにしようと、自戒の念を改めて持てると思うからだ。私は、知人から次のような話を聞いた。店で買った物をすぐ使うため、取り外したパッケージの持ち帰りをお客様にお願いすると、怒る人もいるので、店側が分別して捨てる方針に変えたというのだ。これは、気の利いたサービスに聞こえるかもしれない。

しかし、私は、便利さを重んじ、自分の目の前からはゴミがなくなって満足するこの姿勢は、ゴミの増加とその焼却の為の大気汚染を助長させると考える。自分で出すゴミを把握することは、ゴミの削減と、その先の大気汚染改善への第一歩なのだ。

空は、世界に繋がっている。つまり、大気汚染は、全世界共通の地球規模で取り組まねばならない問題なのだ。問題解決は、便利さとは真逆の方向にあるかもしれないが、自分一人なら大丈夫という甘い考えは、もはや通用せず、一人ひとりの意識改革が求められている。

この広く青い空を未来に残すためには、各自が自分の行動を律し、今出来る努力を続ける必要がある。個人の力は小さいかもしれない。しかし、良くも悪くも「塵も積もれば山となる」のだ。私は、これからの世界を担う世代の一人として、今後も私なりの努力と取り組みを続けて行こうと、改めて心に誓った。

環境大臣賞：小学生部門

タイトル：【自分で出来ること】

東京都 小学校5年生 仲田 賢生

ぼくは、お父さんからもらった新聞の中に大気汚染という言葉を知り、本でくわしく調べました。

ぼくは、朝日新聞出版の『大気汚染のサバイバル』という本を読みました。その中で、最もびっくりしたのが、大気汚染が原因で病気になってしまうことです。体内にホコリがたまり、熱を出したり気管支がひどくはれるようです。また、ぜん息や肺炎を起こすかも知れません。ぼくは本に「微小粒子状物質は静かな殺人者」と言われている理由がわかりました。

ホコリは古くから、人間と共に存在してきました。けれどもホコリが問題になってきたのは、最近のことだと言われています。そのホコリは主に、車や工場、建築現場などから出て、微小粒子状物質と言われています。毎朝ぼくは、天気予報でPM2.5の予報がなんのことだろうと思いました。本で調べたら、PM2.5は微小粒子物質だとわかりました。PM2.5は、微小粒子状物質の略です。微小粒子状物は、すごく小さいホコリのため、体の奥に入ってしまった、体をさらされている状態から気管支炎やぜんそくのような呼吸器疾患やガン、認知症になってしまう危険が大きいのです。だから、この微小粒子状物質は「しずかな殺人者」と言われてきた理由です。

微小粒子状物質から逃げる方法は、全く無いわけではないとぼくは考えています。例えば、外に出るとき、マスクをつけたり、外のホコリを部屋に持ち込まないことや部屋をこまめにそうじすることです。日常生活の中でホコリをできるだけ吸い込まない事が大切だと思います。

このことから、ぼくは、大気汚染をへらす活動をしていきたいと思います。なぜならば、大気汚染をへらすことによって、微小粒子状物質をへらすことができ、微小粒子状物質で苦しむ人たちを一人でも少なくすることも出来ると思ったからです。そのため、ぼくでも出来る事を調べました。

一つは、ゴミを分別することです。ゴミを分別することで、燃やす量を減らすことができ、硫黄酸化物や窒素酸化物、一酸化炭素を排出する量を減らすことが出来るからです。

二つ目は自動車でなく、公共交通や自転車を利用することです。自動車は、排気ガスを出し、空気を汚染するからです。できるだけ多くの人が利用する電車やバス、地下鉄の公共交通を利用したり自転車に乗ります。

今のぼくは、出来る事が少ないかもしれないけど、日常生活から積み重ねてがんばっていけば、大気汚染をへらすことができると思います。

環境大臣賞：中学生部門

タイトル：【救うために】

広島県 中学校3年生 舛部 椿

大気汚染により、年間650万人が尊い命を落としている。

これは、二年前のIEAによる資料だが、二年が経った今も尚、世界では大気汚染により命が失われている。この文章とデータだけでは深刻さは伝わりきらないだろう。しかし、あなたが大気汚染で命を落とす立場であればどうだろうか。私は、大気汚染という存在がとても大きく見えた。

まず、大気汚染について説明しよう。大気汚染とは、大気中の微粒子や気体成分が増加して、人の健康や環境に悪影響をもたらすことである。主な原因は人間の経済的、社会的な活動である。つまりは、私たち人間のせいであらう。私たちが人間の命が奪われているのだ。私は更に「大気汚染」の深刻さを実感した。

だが、そんな私も大気汚染に苦しめられた経験がある。私は持病とアレルギーを持っており、鼻が非常に弱い。だから、日本にPM2.5が舞い込んできたとき、せきやくしゃみをしてしまい、授業に集中できなかつたり、話をちゃんと聞けず、人に迷惑をかけてしまつたりしたことがある。苦しかった。辛かった。しかし、命を落としている人は私よりも苦しく、痛く、辛い思いをしたのだろう。そう思うと、酷く心が痛んだ。そういう人を救いたい。命を落としてしまう人を一人でも減らしたい。そう思うものの、現実には果てしなく厳しく、具体的な打開策は挙げられなかつた。

しかし、人間は進化している。それと同時に研究も進化している。汚染物質の回収や質の良い燃料・原料への変更、改質などの技術的対策、大気中の濃度基準などの規制等の対策が進められている。一人の力では不十分かもしれない。しかし、一人から市町村、市町村から都道府県、都道府県からやがては国となって動けばそれは壮大な力となる。時として数は権力となるのだ。

だから、これを読んだあなたも、どうか僅かなことでいいから考えてほしい。考えるだけでいい。これからの地球と子孫を救えるのは今、この問題に直面している現代の私たちだけだ。

私は、これから沢山の本を読み、大気汚染について多くの知識を身に付けたいと思っている。また、ボランティアや募金などに積極的に参加し、僅かな力でも地球と人に貢献したい。

大気汚染を完全に無くすには、人間一人ひとりの協力が必要だ。明日、明後日の未来を守るために、私たち人間や他の生物の命が失われぬために、地球を救うために、今こそ一丸となるべきではなからうか。

地球こどもクラブ賞

タイトル：【大気環境のために】
東京都 小学校6年生 三國 礼華

「わー！」

足が宙に浮いた。おばあさんとぶつかりそうになり、あわててハンドルを左にかたむけた。私は今、自転車で習い事にむかうと中だ。以前は、お母さんに車で送ってもらっていたが、私は習い事に自転車で行くことにした。なぜなら…。

「スー」

線路の上を一センチ、また一センチと進んでいく小さな小さな電車。私は、その一つ一つの動きを食い入るように見ている。ここは科学館。私が見ているのは、リニアモーターカーのミニチュアだ。リニアモーターカーとは、磁力を利用して走る電車だ。私がここに来たのは、夏休みの自由研究でこの「リニアモーターカー」のしくみを利用したおもちゃを作るからだ。ここで色々な展示を見たり、係の人に話を聞いたりした。リニアモーターカーは、飛行機並みに速いスピードで走ることができる上、一度にたくさんの人を運ぶことができる。

また、二酸化炭素の排出量が航空機の約三分の一、自動車の約四分の一ほど少ない。リニアモーターカーは、とても速いのはもちろん、環境にやさしい乗り物だということが分かった。私は、環境にやさしい乗り物についてインターネットで調べていくうちに、空気がよごれている原因の項目にたどりついた。あまり聞いたことのない名前なのが原因としてあげられていた。大気のはよごれは、自動車、特にディーゼル車から出る、二酸化窒素（NO₂）や浮遊粒子状物質（SPM）が原因とあった。

そういえば、渋谷や新宿、原宿などの大都会では、おしゃれなカフェやお店が立ちならび楽しい場所であるが、大きな交差点にはひっきりなしに車が通る。そのせいか、空気がよごれていると感ずることがある。こういった場所に行くと、時々せきが出るからだ。

「大気のはよごれ」というのは、日常生活の中では不快なものだ。みんなが快適にすごすということはむずかしいことだと思うが、一人でも快適にすごすために、私たちは日頃から何に気を付けてすごすと良いのだろうか。

私は、普段からできることを一つ考えてみた。それは、歩いたり、電車で行ったりできる所には、なるべく車を使わないということだ。自動車の使用を減らすことにより、NO₂やSPMの排出量を減らせると思う。また、歩くことは、健康にも良い。この一つだけでも実行することで、大気環境を良くすることに一歩近づけると思う。

私は、風を全身に受けながら、自転車を力いっぱいこいだ。